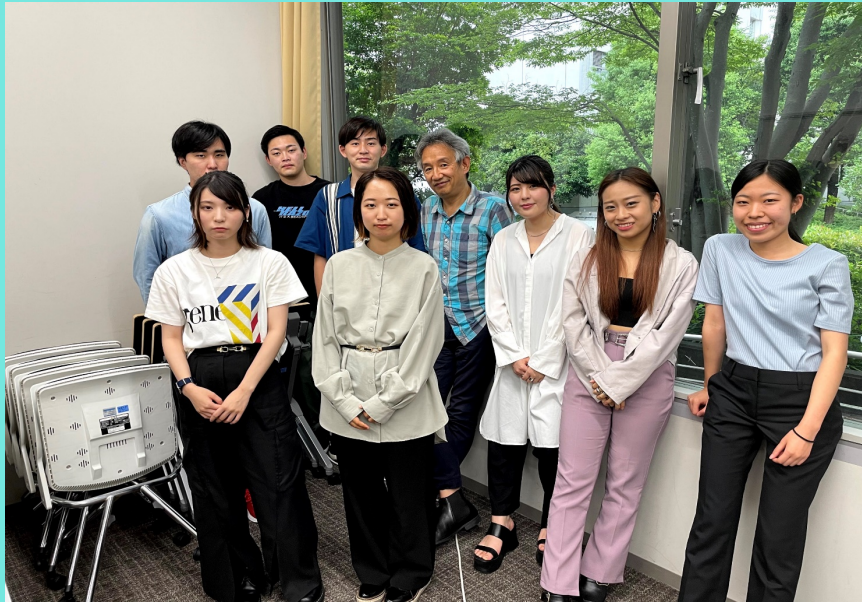


CO-VIVID21



By 英米語学科生

ごあいさつ

Contents

- ・教職志望の**松岡さん**、**田内さん**
- ・新任ネイティブ教員、**セーラ先生**
- ・英語演劇ゼミの**岡本さん**
- ・TOEIC900の秘訣
(**丸山さん**、**本城さん**)
- ・カジュアル就活を経験した
川口さん
- ・寮暮らしと一人暮らしを経験した**河村さん**

コロナによってゼミの活動もほとんどオンラインとなったが、私たちの代の記念すべき第1号の新聞がついに完成した。すべての英米語学科生と、拓大への入学を考えている高校生にとってためになる記事がそろった。私たちの新聞を読んで、大学生活の役に立ててくれると嬉しい。

(編集長・横山 汐梨)

英米語学科教員志望トリオ インタビュー（1） 松岡則花さん

英米語学科には、毎年、英語教員志望の学生がたくさん入学してくる。最近は小学校英語教員の希望者も徐々に増えてきている。彼らはどのような思いで、教員を希望し、英米語学科で教員に向けてどのように成長しているのか。4年生の3人に聞いた。

松岡則花（のりか）さんー「生徒に寄り添う」教員を目指して

英米語学科4年生女子の中で最もパワフル、「豪快さ」で知られる松岡さん。彼女の意外な一面に触れることができた。

Q どうして教員を目指したの？
I きっかけは反骨精神

小学校3年生の時に嫌な先生に出会ったことがきっかけ。インフルエンザで学校を休んだ時、授業に付いていけず、友達に教えてもらっていたら、お喋りと勘違いされて、黒板の前に立たされた。「こんな人が先生になれるんだったら私になっちゃる」と思った。

小学5年生では良い先生に出会い「リーダーシップがあるから先生向いてるんじゃない？」と言ってもらった。この一言で教員になることを心に決めた。高校1年生の時に、交換留学

でハワイに行って、そこでできた友人が自分の発音をほめてくれたことも後押しになったかな。

Q 拓大の教職制度はどう？

I 英語教職ゼミと英語科教育法からの学び

「英語教師・教育研究」を行う保坂芳男教授のゼミでは、3年次に第二言語習得に関する本を読み、学生同士で意見を出し、話し合うのがメイン。4年次は都道府県の採用試験の過去問を解き、模擬授業も行う。

英語科教育法は狩野紀子教授が担当。学習指導要領に関して勉強したり、授業案を作成したりした。実践的な内容で、教員に近づいたと感じた授業だった。授業以外では、2校の中学校でサポーターと授業のボランティアをしている。片方の学校では2つのクラスで補習授業も担当している。

Q どんな先生になりたい？
I 子供たちにどれだけ寄り添えるか

教員になりたい、子供を思いやる、子供に寄り添ってあげたいという気持ちが一番大事。真つすぐな熱意がないと教員にはなれない。

ここぞという時に子供たちの

力になれる先生になりたい。先生って呼ばれるのも嫌なくらい、子供たちとの壁がない、先生らしくない先生になりたい。授業では、拓大での学びを活かして、話し合いやゲームなど活動的でオリジナルな授業を確立したい。やり取りを通して、生徒の好き嫌いを知っていききたいな。

Q 教職を目指す後輩、高校生へのアドバイスは？

やめることはいつでもできるの、少しでも興味があれば教職を取ってみてほしい。拓大の教職は厳しいけど、教職を取ったからこそ学びが必ずあるね。（河村 真由）



松岡 則花さん

英米語学科教員志望 トリオ インタ ビュー (2) 田内真帆さん



前の記事に登場した松岡さんに比べると、小柄な田内真帆さん。しかし、その教員にかけるパワーは松岡さんに引けを取りません。英語教員への熱い思いを語ってもらった。

Q 英語教員になろうと思っ
たきっかけは？

教員になりたいと思い始めたのは中学2年生の頃です。「先生ってなんかカッコいいなあ」といった理由でした。単なるあこがれでしたが、高校生になって、中学か高校の英語の先生になると決めました。これには理由が二つあります。

今の学校で学ぶ英語は単語、文法をただ覚える受験のための英語で『つまらない』というイメージが浸透しているように思います。英語の起源や歴史、アニメの英訳など、生徒の知的好奇心を芽生えさせるような英語を教えてみたいと思いました。

もう一つは、高校での恩師との出会いです。私は、小学校から高校までずっといじめを受けていて一人ぼっちでした。そんな私をいつも気にかけてくれる先生がいました。毎日のように相談に乗ってくれ、心が救われたことを鮮明に覚えています。それから、かつての恩師の様に自分も悩

んでいる生徒に人生を本気で使ってみたいと思うようになりました。

Q はつきりとした理由があり驚きました。夢の実現に向けてハードルはありますか？

やはり教育実習と教員採用試験が心配です。教育実習は、5月の下旬からスタートするのですが、すでに緊張しています。たくさん不安はありますがそれを吹き飛ばせるくらいのエネルギーを持って母校でパフォーマンスしたいです。採用試験は、一次試験は筆記なのであまり気負ってはいませんが、二次試験の個人面接、実技試験は不安しかありません。ですが、保坂ゼミで鍛えた精神力と各試験対策を有効に活かしたいです。

Q なかなか大変そうですが、自分を励ます方法は何かありますか？

私は「お前が教師になって何を教えられるのだ」と言われたことがあります。それにすぐく腹が立ち、絶対教員になって見返してやるぞって決めました。

あとは、私を頼りにしてくれる大学の友人の存在です。些細なことですが、自分が彼女たちの手助けをすると喜ん

でくれます。その笑顔をみると、将来自分が尽くして、喜んでくれる生徒の姿が想像できて、元気が湧いてきます。

Q 熱い思いがあるんですね。最後に拓大で教職を目指す後輩へのアドバイスをお願いします。

そうですね。英語の教職科目は、1、2年で取る必修科目、2年生で取る、狩野紀子教授の「英語科教育法1」、3年生の保坂芳男教授の「英語科教育法2」と、「難関科目」がいくつもあります。

しかし、単位が取れればいいという安易な考えではなく、成績でSを取るつもりで取り組んでください。教師になるにはそれくらいの覚悟と努力が必要だと思っています。

(岡本 紘太)

*小田島君の記事は次号掲載予定です。



実際に教育実習を終えた
田内真帆さん

テレビ業界から英語教員へ！ 新任教員セーラ先生

去年4月から拓殖大学にやってきたオーストラリア出身のセーラ・メイソン先生。主としてSpeak & WriteやWorkshopを担当している。若干厳しくて冷静という、サラ先生に話を聞いた。

Q なぜ日本に来たの？

高校生の時に日本の歴史を学んで興味を抱いたので、TV業界に勤務後、ワーキングホリデーで日本へ来ました。そこで、日本の文化や日本人の親切さ、治安の良さに惹かれて約20年前から日本に住んでいます。

Q 好きな歴史スポットは？

京都や奈良などたくさん場所へ訪れたけれど、宮島が一番綺麗で落ちついてるので気に入っています。

最近だと世田谷区に展示されている縄文時代の家を観に行きました。当時の人々がどのように暮らしていたのかを知られて、とても興味深かったです。自分の顔写真を送って、縄文顔か弥生顔か判定してくれるアプリもあって面白かったです。私は縄文顔でした(笑)。

Q 英語教員になる前は何をしていたの？

TV業界で働いていました。大学で人類学と法学を専攻していたので、オーストラリアに住むアボリジニに関するTV番組制作で、どんなトピックがいいかを調査していました。

その後は他のドキュメンタリー番組を担当しましたが、毎日昼も夜も働いてストレスを感じ、退社しました。

Q 英語教員になろうと思ったきっかけは？

友人の影響です。彼女は南アメリカで教師をしていてやりがいを見せてくれました。私自身、旅をして世界を見るのが好きだったので海外で教師になることに興味を抱きました。そこで、彼女が通っていた学校で教員コースを受講後、英語教員になりました。

前職とは仕事内容が全く違うので教師1年目は本当にストレスでした。常に不安で、授業の準備に約2時間を割いていました。授業の数をこなすことで自信もついて、今はとてもやりがいを感じています。

Q 拓大生の印象とメッセージは？

とても真面目な人が多いと思います。オンライン授業だったのでよく分からないけれど、英語を有効に使ってコミュニケーションしようとしていて印象です。大学は人生において学ぶことに集中出来るとても貴重な時間です。

社会人になると忙しくなるので、大学生の今、英語の勉強に取り組む魅力的な機会が沢山あるからこそ、英語をしっかりと学んでほしいです。

筆者からのコメント

厳しいと聞いていたので取材前は緊張していたが、実際に話してみるとしっかりと話を聞いてくれて、とても優しい印象を受けた。セーラ先生に実際に会う機会があれば、怖がらずに積極的に話しかけてみてほしい。

(本城真優)



セーラ・メイソン先生



英米語学科オンラインワン・ネ イティブ教員ゼミ ー英語演劇に挑戦！

英米語学科の数あるゼミで唯一ネイティブの先生が担当しているクリス・パイパーゼミは、英語演劇にトライしている。コロナでゼミもオンライン化を余儀なくされている今、どのような活動をしているのだろうか。4年生の岡本里緒さんを中心に話を聞いた。

1年間で3つの英語劇を上演 ーシェイクスピア、ディケンズにも挑戦

パイパー先生が、ゼミで英語劇をやり始めたのは、昨年のこと。パイパー先生が演劇を勉強した経験がきっかけだ。現在の4年生が最初の学年でメンバーは演劇経験者ゼロ。一から演劇に関する知識を学ぶところから始まった。

先生が劇の台本や演劇の資料などを用意して、メンバーそれぞれ役を決め、練習開始。週1回のゼミでの合同練習をこなし、数か月後に発表する。去年1年間で取り組んだ演目は合計3つ。短い劇から始め、シェイクスピアの『マクベス』にも挑戦した。

最後に1年間の活動の集大成としてディケンズの『クリスマス・キャロル』に挑んだ。約1ヶ月の練習を経てメン

バーの友人を招待して演目を披露した。

ただセリフを読むだけでは ないー表現力を鍛える

演劇に取り入れるテクニクとして、単語の発音の強弱、セリフを読むスピードの違い、どんな感情を込めてセリフを言うかに至るまで議論して臨んだ。

セリフをどんな風に読み上げるかも、演じる学生に任されている。表現の工夫の余地は大いにあり、それが演劇の魅力でもある。

クリス先生も必要に応じてアドバイスしてくれる。

オンライン授業の限界？ー上演

しかし、スタートからいきなりコロナでオンライン化を強いられ、練習も上演も全てZOOM。

オンラインで、実際の舞台で演じる際の距離感や全身の身振りまで再現するのはかなり難しい。

『マクベス』や『クリスマス・キャロル』では全身を使って表現するシーンも多かったが、顔だけを写しての演目に留まってしまった。

実際の舞台に立った時の気持ちの切り替えを家の自室で行うのも神経の要る作業だ。

本来ならキャラのコスチュームを着て臨んでいた演目も断念を余儀なくされてしまった。

友人を招待してのオンライン上演は、ステージ衣装も、動きも無く、各自が順番にセリフを語ることしかできなかった。

それでもあった収穫ー意外な個性の表出

演劇が大好きで、一際積極的に活動していた岡本さん。そんな中ゼミ活動として大きな収穫があったと言う。

それは演劇という活動を通して見えた、メンバーの普段とは違う一面への驚きだった。

「この人はこんなこともできるんだ」、「この子はこんな演技もできるんだ」という感心呼び起こされた。

現代の分業化されたシステムの中ではチームで活動することが多く、外交性やチームワークは広く求められる。セリフの解釈を皆で議論し、一つの劇を作り上げる経験は、就活にも通ずるものがあると思うだ。(堀江 冬到)



と今年
の4年
生
の
本
台
の
実
際
の
ク
リ
ス
マ
ス
・
キ
ャ
ロ
ル
岡
本
里
緒
さ
ん

勝者に聞く「TOEIC900越え」の成功方法

TOEICは自分の英語力を試すだけでなく、就活にも使えるので、多くの学生が受験している。しかし、高得点を出すことは至難の業だ。私たちはどうやって勉強すべきなのだろうか。TOEICのリスニング&リーディングで900点以上をたたき出した丸山壮大さんと本城真優さんにコツを聞いた。

■とにかくインプット

二人の初受験は大学1年生の時。最初の点数は500点台付近とまざる結果だった。その後、二人は何回も受験し、最終的に900点超えを達成したのだが、そこに至るまでには、読む聴く両方でインプットを増やしたという。

リーディングから見ていこう。丸山さんと本城さんはリーディング対策として公式問題集を解くと同時に、他の参考書も使用した。丸山さんは『TOEIC(R)テスト990点新・全方位リーディング』（ジャパンタイムズ出版）と『TOEIC L&R テスト 文法問題 1000問』（アスク出版）を、本城さんは『1駅1題 TOEIC L&R TEST 文法特急』（朝日新聞出版）と『新TOEIC TEST 文法特急2 急所アタック編』（朝日新聞出版）をそれぞれ使った。これらは全て文法問題を扱っており、これで二人は文法の弱点を補った。そ

の結果、読解力も上がったという。本城さんはこれら以外に、BBCなどの海外ニュースを英語で視聴したり、TOEIC800点レベルのペーパーバックを読んだりして長時間英語を読める体力をつけた。

■ネットで英語を聴きまくる

リスニングはどうか。二人とも公式問題集のCDのほか、「Netflix」や「YouTube」など、インターネットのさまざまなサービスを利用して、リスニング力を鍛えたという。特に「Netflix」の作品には字幕があるため、日本語で意味を確認しながら、英語の発音をチェックすることができそう。

二人がよく見ていたのは『フレンズ』や『フルハウス』といったシチュエーション・コメディ。これらの作品では日常会話やスラングが多いため、勉強には不向きにも思えるだが、登場人物は当然ネイティブなので、話す速度が速く、リスニング力の鍛錬には好都合だと言う。

■遊び心を持つ

高得点を獲得するためには「継続性が大事だ」と二人は口を揃えて言う。毎日1本、海外の映画や動画を見たり、洋楽を聞いたりして、英語に触れることが効果を生

む。加えて、丸山さんは「ライバルがいることで競争力が生まれ、根気強くなる」と教えてくれた。このような勉強方法からは、丸山さんと本城さんが英語の勉強を楽しんでいる姿が浮かんでくる。二人のアドバイスを参考にしつつ、自分に合ったスタイルで、TOEICの攻略法を編み出してはいかがだろうか。

(南野 太志)



本城 真優さん



丸山 壮大さん



内定者が語る 「カジュアル 選考」と、そ の乗り越え方

英米語学科4年の私は、2020年10月ごろから就活を開始。今年1月後半に第一希望の通信・メディア企業に内定をいただいたが、その選考がカジュアルで独特だった。自分の経験を振り返り、その特徴と対策のヒントを探る。



就活で愛用したノートPCを手に（筆者撮影）

◆私が体験したカジュアル選考

この企業の選考は昨年12月後半に始まった。選考の過程は時期によって異なるようだが、私の場合は自己PR動画とプレゼンテーション、そして最終面接の3段階だった。全ての選考がオンラインで行われ、また服装は私服を指定された。

まず、自己PR動画では、自分の人生に題名をつけて1分半の間に語ることが課題だった。私は音楽というテ

マを選択した。これまでの人生の節目で音楽が私を支えてきたことを熱く話したが、「音楽が大好きだ」というメッセージを伝えることに専念していた。この企業を志望した根本的な理由も「音楽を提供する側にいたい」という思いを持っていたからだ。次のプレゼンテーションでは、いくつかテーマの選択肢が与えられその中から自身で選択して発表するというものだった。私はテーマとして家族を選択し、コロナ渦の大変な就活の中で家族の存在がどれほど自分にとって大切であるかを話した。

◆カジュアルの長所と短所

その後、軽い面接と最終面接では、志望動機や入社後のビジョン、プレゼンの内容について質問したが、ここにカジュアル就活の特徴のひとつが見られた。かしこまった質疑応答ではなく、その様子はまるで気軽に会話をしているかのようだった。既成概念にとらわれず、若手を尊重する社風が反映されているのだと感じた。

また従来の面接は、エントリーシートをもとにしながら質疑応答が行われることが多いが、この企業ではそれがな

かった。学歴や資格、大学でやってきたことは質問されず、個性や性格、会社への情熱が重視されていた。私服も個性を評価する対象と思われる。私は事前に企業のウェブサイトを徹底的に調べ、キーワードをメモして、入社後のビジョンを描いていた。面接では、それを具体的に自分の言葉で伝えた。

◆自己を知る

伝統的かカジュアルか？就活への取り組み方を決めるには、どちらが自分に合っているかを知ることが大切だろう。それには自己分析が役立つ。インターネットで検索すれば、そのためのツールはたくさんある。

自分に向いた業界や職業がはつきりすれば、それが自分の考えや態度、言葉にも良い影響を与える。カジュアル選考で成功するためのヒントは、そこにある気がする。

（川口 あい）

寮と一人暮らしはどちらがいい？



大学進学を理由に実家を出る学生も少なくないでしょう。4年塩崎ゼミの河村真由さんは今、一人で暮らしています。が、大学構内のカレッジハウス扶桑の女子棟で数年間暮らした経験を持っています。それぞれのような特徴があるのか聞いてみました。

Q 寮暮らしの利点は？

まず、学部学科を問わず友人を作れることですね。部屋に行き来は自由なので、放課後、友人の部屋で課題を一緒にやったり、週末はご飯を一緒に作ったり。家族のような友達ができます。

また、寮が大学構内にあるので、空きコマに部屋に帰ることも可能。自分で食事を作る必要がないので、その分の時間を勉強に使うことができます。ほか、栄養面の管理もしやすいです。

寮は比較的新しく、個人部屋になります。バス・トイレは別で、キッチン付き。テスト前などには、各棟にあるミーティングルームを申請すれば借りることができます。このような設備面や大学構内という利便性と安全性を考慮すると、保護者にとっても安心感があるかと思います。

Q 寮のデメリットは？

寮の門限や駅までの距離が不便かもしれません。寮の規則で門限は24時。寮生以外の人を寮内にいれたり、男子棟と女子棟を行き来したりすることは禁止されています。

費用もネック。寮費は毎月6万2000円で、それとは別に光熱費とインターネット代がかかります。

また、寮では、授業がない休みの期間は食事が提供されないにもかかわらず、寮費は満額支払わなければなりません。

それに対して、一人暮らしの費用は私の場合、全て込みで約6万2000円と、寮よりも少し抑えられています。

Q 一人暮らしの良さは？

寮と違って、食費や生活費などは工夫次第で節約することができ、貯めた分を自分の好きなことに費やすことができます。

一人暮らしでは時間や規則に縛られないので、深夜のバイトができたり、友達や家族を泊めたり、自由に生活することができ、自由になります。

また、就職活動が始まると、都心に行く機会が増えるので、駅近の物件に住むと時短になります。



（河村 真由さん）

一人暮らしのツラさ

ここからは一人暮らし歴が長い筆者が、その短所を2点挙げてみます。

まずは孤独感。一人暮らしの最初の1か月は、ホームシックと新生活のストレスに悩まされることがありますが、助けてくれる人が身近にいないという現実がツライでしょう。次は家事の大変さ。掃除、洗濯、料理は時間と手間がかかるため、勉強時間が削られます。また、個人的には、一人暮らしをするまで料理は楽しいことでしたが、それがいつしか「毎日やらなきゃいけない作業」に変わってしまいました。

寮と一人暮らしは、それぞれ一長一短があります。総合的に評価して選んでみてください。（加藤 瑞貴）

顧問センス

2021年5月からティーチング・アシスタントとして塩崎ゼミで新聞づくりの手伝いをさせていただいている。現在、社会人として拓大の大学院で英語の歴史を研究しているが、自分は編集者の端くれであるため、指導教授の塩崎先生にお声掛けいただいた。

始まってから2か月以上の時間が経つが、3・4年の塩崎ゼミに共通した特徴の一つは、ゼミ生たちがそれぞれの記事について検討し、意見を交換することだ。自分が学部生時代に所属していた違うゼミでは、先生にお願いしてマンツーマンで指導していただいていた。そんな過去の経験と比べると、オンラインとはいえ、塩崎ゼミでは集団ならではのダイナミクスが随所に見られて面白い。編集会議ながらである。多くのゼミ生の関心事は就活。記事作成で養った文章能力は社会人になっても役立つ。一文字、一語、一行、一段落を丁寧に自分の言葉で書くことが道を開くと思う。健闘を祈りたい。

ちなみにタイトルのCO-VIVIDはお気付きと思うが、COVIDのパロディで、「共に輝く2021年」という意味が込められている。新種の変異株ではないが、良性的な変異株となれば幸いと、名付け親の塩崎教授は語っていた。

(久保田 遼)

編集後記

コロナ禍でも負けずに作った、私たちのCO-VIVID21新聞第1号を読んただき、スタッフを代表して感謝の意を表したい。

私たちの代のゼミではイレギュラーなことが重なっている。まずはコロナによるゼミのオンラインでの活動。この春から他ゼミから2名が転属し、加わって活動していること。さらに拓大商学部のOBで編集者として仕事をしている、久保田遼さんが新聞の制作に協力してくれていることだ。

私たちの印象を次のように話してくれた。「ほとんど対面でゼミを行っていないので、ゼミ全体でのコミュニケーションが十分には深まっていない。そのような状況でもめげずに、明るくコツコツと頑張ってくれている。例年より少人数だが、チームとしては程よい人数かもしれない。個性豊か「過ぎる」メンバーで最初はどうなることかと思ったが、就活などを経験して『大人』社会人』になりつつある。」

そんな私たちの処女作では、教員を目指す学生たちのインタビュー記事を掲載した彼女たちの夢に対する情熱が伝わられており、教員を目指す者は必ず読んで欲しい。他にもTOEICスコア900超の学生の必勝法の記事をはじめに、拓大生に向けた有益な情報も盛りだくさんとなった。塩崎ゼミではこれからもより良い新聞を作るべく精進していくので、ぜひこれからもCO-VIVID21新聞に目を通し応援していただきたい。

(編集長・横山 汐梨)

Preview of Next Contents

- ・留学グルメ記事～大野先生UKのFISH & CHIPSを語る～
- ・博多弁バイリンガル？新任ジェフ先生インタビュー
- ・富永さん、通訳・翻訳ゼミ（河原ゼミ）を語る
- ・大越先生（国際日本語学科）日本語ボランティアを語る
- ・居村先生のNHKラジオ番組に迫る
- ・教職インタビュー～小田島さん編～
- ・Hリゾートに内定をもらった河村さんにインタビュー

